

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2522 号

Prognostic impact of extranodal extension in patients with pN1-N2 lung adenocarcinoma

病理病期 N1-N2 肺腺癌患者における節外浸潤が予後へ与える影響

野村 幸太郎 (のむら こうたろう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、完全切除された、リンパ節転移を伴う肺腺癌患者において、リンパ節転移巣の形態学的特徴のうち節外浸潤が重要な予後因子であることを明らかにした臨床的に意義のある論文である。個々の形態学的特徴（たとえばリンパ節転移巣の個数など）を評価した報告は、本文に引用されているようにいくつか見られるが、それらを同時に評価して検討した報告は未だない。リンパ節転移巣の複数の形態学的特徴を病理学的に評価し、その中でも節外浸潤が重要であることを示している。リンパ節転移を伴う 168 例を、観察期間中央値 4.0 年と十分な評価を行い、臨床病理学的なデータも詳細に蓄積されている。リンパ節転移巣の腫瘍面積や壊死の割合、節外浸潤の有無を病理学的に緻密な評価が行われた様子が示されており、リンパ節転移巣の形態学的特徴に関する定義が明確にされている。結果に示されているように、節外浸潤は他の臨床病理学的因子やリンパ節転移巣の形態学的特徴と比較しても有意な予後不良因子であり、Kaplan-Meier 曲線でも節外浸潤が重要な予後不良因子であったことがはっきりと示されている。節外浸潤を認識することはリンパ節転移を伴う肺腺癌患者の予後をより正確に予測することに繋がるだろう。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。